

教科研究主題

## 美のある日常を具現する，生徒の主体的な学びの構想

### ○実践の在り方を問い直すきっかけとなった「問い」

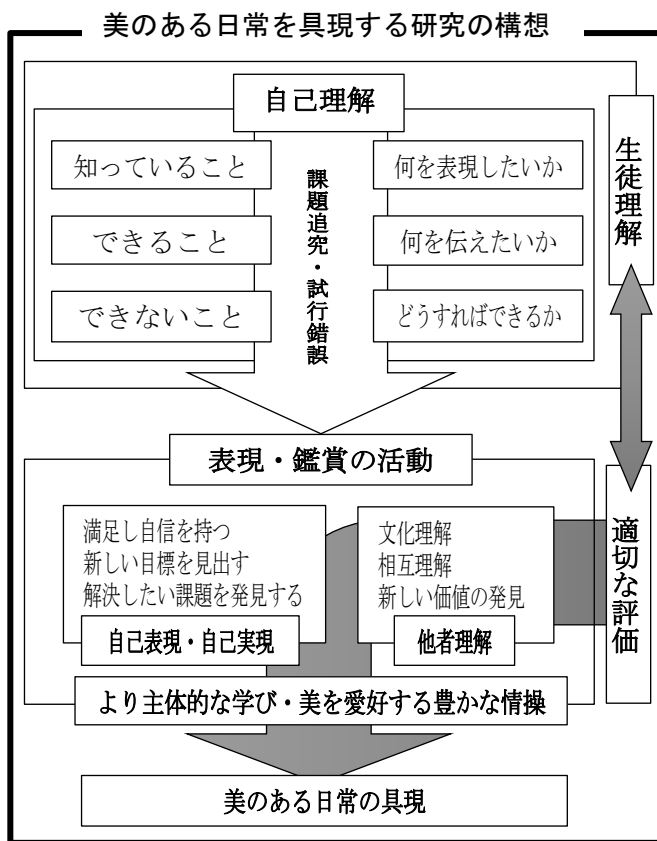
- ・主体的な学習態度と美術を愛好する心情は「イコール」で結ばれるか。
- ・「主体的に活動させている」という言葉に矛盾はないか
- ・基礎基本とは，そもそも何の基礎基本のことか
- ・学習が美術室の中で完結していないか

これまでの全ての実践を  
批判的に見直す覚悟で

### ○研究の内容

美術の学習で発揮される“人間らしさ”を授業の中心に据えていく試み

感じること・思うこと・考えること・味わうこと・喜びを感じること・間違いから学ぶこと



### 主体的態度の見とりが出発点

- ・喜び (Joy)
  - ・感動 (Impressed)
  - ・充足 (Fulfillment)
  - ・満足 (Satisfaction)
  - ・熱中 (Engross)
  - ・充実 (Fullness)
  - ・成長 (development)
- 味わいたい  
感じたい  
得たい
- 味わっている  
感じている  
得ている

生徒の意欲を支える要素(例)

知ることや覚えることに対する意欲は，対象への関心の有無に左右される。しかし知識欲を満たすだけでは学習として不十分であることは言うまでもない。主体的な態度は，なぜ「知りたい・覚えたい・できるようになりたい・表現したい・味わいたい」と思ったのかという動機や課題の発見と解決のプロセス，取り組み後のふり振り返りと得た知の活用に現れてくると考える。

この見とりと評価活動を適切に相関させていくことで，左図のような構造の構築が可能になると考えている。

### 思考の多様性を期待できる題材の工夫

美術の学習では同じ問いでも生徒の感受その他様々な要素がはたらき，表出される解(おもしろい)が異なる。壁掛けを作る，表札を作る，飾り小箱をつくる，といった題材で学習するのは「木彫工芸の制作過程と彫りの実技」で，出来上がった作品はデザインこそ違っても皆が同じものである。

「教師からのインプットに対し生徒が10人いれば10通りのアウトプットがあり，そのどれもが正解である」ことを大事にした題材の工夫は必須である。

### 鑑賞題材の吟味

絵画で自画像を制作するからゴッホやレンブラントの自画像を鑑賞するとか，岩手県ゆかりの作家だから舟越作品を鑑賞する，といった程度では足りない。美術室の中で完結する学習ではなく「生徒の美的な日常」に視点を置いたとき，多くの場合，制作者としてよりも鑑賞者として生活するのだから，美的な感性，鑑賞眼，審美眼といったものを育てていく時間として重要視されなければならない。

### 年間指導計画の全面的な見直し

これまでは，学習内容の系統性を検討し策定していた。批判的に考えてみれば教師の都合で指導をシステマチックにすることを最優先にしてしまっていたようにも思う。義務教育の履修を終えた生徒が「一人の人間が生涯美術とかかわっていくための基礎基本を9年間で育む」捉えていくことだ。